

令和元年 10 月市長定例記者会見 記録

令和元年 10 月 28 日(月)

午前 9 時～午前 9 時 30 分

発表案件

1. 次期「佐渡市将来ビジョン」策定に関する市民意見交換会の開催について

佐渡市将来ビジョンの計画期間が今年度をもって終了するため、現在、令和 2 年度から 10 年間の次期ビジョンの策定を進めております。人口減少や少子高齢化が進んでいるなか、産業及び経済のさらなる活性化に向けての取り組み、高齢化、過疎化に対応したコミュニティづくり、医療・福祉・子育て等のサービスの充実など、魅力ある島をつくりあげるとともに、未来の佐渡市を担う人材を育成し、安心して暮らせる社会の創設を目指したいと思っております。

次期ビジョン策定に向けまして広く市民の皆様からのご意見をお聞かせいただきたく、意見交換会を 11 月 15 日から島内 5 会場において開催いたします。なお、10 月 10 日発行の市報さどにて開催日を 11 月 17 日と 19 日から 22 日の 5 日間とお知らせしておりましたが、一部開催日が変更となりました。変更後の開催日は 11 月 15 日、17 日、21 日、22 日、25 日の 5 日間です。詳しくは 11 月 10 日発行の市報さど及び佐渡市ホームページ、フェイスブック等にてご案内いたしますのでよろしくお願いたします。この 5 日間すべての会場で同じ説明をさせていただきますので、ご都合のよい会場へお越しいただきますよう、よろしくお願いたします。

2. 令和元年度佐渡市総合防災訓練の実施について

今年度の佐渡市総合防災訓練を 11 月 10 日曜日の午前 9 時から午後 0 時 30 分まで、赤泊行政サービスセンターとなりの赤泊港周辺をメイン会場として実施いたします。11 月 5 日は津波防災の日であり、今回の訓練でも「佐渡市で最大震度 6 強の地震を観測し、大津波警報が発表され、火災や家屋倒壊などの被害が発生した」ことを想定して行います。今年 6 月 18 日には最大震度 6 強の新潟・山形地震が発生し、佐渡市においても震度 4 を観測いたしました。あわせて新潟県内沿岸部には津波注意報が発表され、佐渡市においても沿岸部に避難指示を発令したものであります。海に囲まれている佐渡市は、離れた場所で発生する地震でも津波の警戒は怠ることができないと再認識する機会であったものと思います。地震や津波の対策としては、定期的な訓練を通じ関係機関との緊密な連携を構築するとともに、市民の皆様の防災意識を高め、災害時の被害を最小限に抑えることが重要なことであると感じております。

総合防災訓練の概要として、赤泊のメイン会場では関係機関がそれぞれの特徴を生かした各種訓練や防災設備の展示、体験を行います。また、今回は赤泊港を利用させていただき、船舶の救助と応急救護所設置の訓練を計画しております。海上保安庁の巡視艇が津波で被災した遊漁船を海上で消火し、メイン会場前で負傷者のトリアージを行いながら救急搬送する訓練でございます。

このほか多くの自主防災組織で、この総合防災訓練と同時に津波の避難訓練や避難行動要支援者

避難訓練等が実施されます。訓練当日の午前9時には緊急情報伝達システムの屋外スピーカーや戸別受信機からサイレンを鳴らした後、地震発生時の安全行動の確認をするためのシェイクアウト訓練の放送が流れます。

市民の皆様にはシェイクアウト訓練に積極的に参加いただきますようお願いいたします。なお、会場周辺において航空機及び車両を使用した訓練を実施しますので、お近くにお住いの皆様にはご迷惑をおかけしますが、なにとぞ協力をお願いいたします。

3. 「佐渡冬紀行」の発売について

佐渡の冬の味覚を大変お得に楽しめます旅行商品「佐渡冬紀行」を今年も販売いたします。佐渡ならではの食材が一層美味しくなる冬に、通常価格のおよそ5割引きのモニター価格とし、首都圏発を2万9,800円、新潟港発は1万7,800円で販売し、隠れた佐渡の魅力を多くの人に体験していただくとともに、万が一船が欠航になった場合でも延泊となった宿泊費を補償する安心でお得なプランでございます。この冬紀行は平成27年度から実施しており、2泊3日の宿泊プランで冬の味覚である活ズワイガニや寒ブリをはじめ島黒豚のしゃぶしゃぶやノドグロを提供いたします。今まで以上に料理の内容を強化し、参画していただくお宿さんからは料理の説明をはじめお客様のおもてなしの充実を図ります。

また、今年度は姉妹都市・友好都市在住のさどまるクラブ会員様にはダイレクトメールを送り、首都圏発着料金と同額で、お得な佐渡土産のプレゼント付きというプランになっております。なお、この冬紀行の販売開始は10月31日の午後2時を予定しています。

4. 「佐渡トキマラソン2020」エントリー開始について

2010年に佐渡初のフルマラソン大会としてスタートした佐渡トキマラソンですが、11回目となる大会を2020年4月26日に開催いたします。エントリーは10月1日から既に開始しており、3月19日までとなっております。

大会は全6種目でおんでこドームをスタート・フィニッシュで行われ、プロランニングコーチの金哲彦さんに監修していただいたトキの森公園を走る景観に富んだコースとなっております。制限時間はフルマラソン7時間、ハーフマラソン3時間半で、参加者の皆様が楽しみながら余裕をもって走れるよう設定しております。今回のゲストはコース設定をしていただいた金哲彦さんをお迎えしまして、大会前日の25日にはランニング教室を行います。また、おんでこドームで開催いたします前夜祭では郷土芸能の披露や金哲彦さんのトークショーを行います。

大会当日は多くの市民ボランティアからご協力いただき、選手受付、コースの誘導、給水所の運営など、おもてなしの心で選手をお迎えし大会を盛り上げていきたいと考えております。あわせて25日、26日には、おんでこドームにおいて佐渡のグルメ、特産品、地酒、郷土料理など多数出店する食のイベントの開催やスポーツ用品等のショップも出店いたします。ぜひ多くの皆様から佐渡トキマラソン2020にご参加くださるようお願いしております。よろしくをお願いいたします。

事前質問

1 来春の市長選への意向を改めて伺います。

市長：

この場は佐渡市の定例会見でございますので、この件については別途機会、時間を設けさせて話をさせていただきたいと考えております。

2 台風19号による佐渡市内の被害と対策を伺います。

市長：

台風19号の被害についてでございますが、新穂湯上温泉については当温泉施設内の1階部分及び機械室が浸水いたしました。現在施設は使用できない状態であり、当分の間、営業を休止することを周知させていただきました。なお、被害額、復旧工事費につきましては現在調査中であり、いつまでに全面復旧するかの見通しはまだ確定しておりません。また、農産物の被害につきましてはおけさ柿で2,169万円、りんご990万円などトータルで3,449万円の被害額が見込まれております。9月の台風17号などを含めました今年度の農産物全体での被害見込額はおよそ1億4,531万円となります。次に市道におきましては両津の黒姫3号線と相川の黒岩線が法面崩壊により通行止めとなっており、林道においても路肩崩壊などにより小佐渡線の一部区間と古峰線が通行止めとなっております。次に文化財につきましては西三川砂金山跡、笹川集落内にあります史跡金子勘三郎家住宅など5件の被害がございました。所有者と復旧について協議し、国、県等関係機関と連携を図りながら復旧を進めてまいり所存でございます。

3 先に厚生労働省が示した病院再編計画に両津病院が挙げられたことに対する市としての見解と移転新築計画への影響を伺います。

市長：

この件は9月26日に厚生労働省が発表したものでございますが、10月15日には新潟県からの説明会も行われました。今回の発表は全国一律の基準による分析で機械的に選定されており、地域の実情が考慮されているものではないこと。この発表が直ちに病院の再編統合につながるものではなく、地域の病院の機能や役割を見直すためのデータであること。今後二次医療圏ごとに地域医療構想調整会議で改めて議論されることなどが説明されました。

新両津病院建設計画の規模及び機能は地域医療構想調整会議や市内の医療関係者らからも認められているものであり、計画は適正であると考えておりますので、今回の発表による影響があるとは現在考えておりません。

4 佐渡汽船ジェットfoil「ぎんが」の更新について

(1) 知事との面談の日程は決まりましたか？

(2) 市・県・佐渡汽船3者による協議のポイントはどこにありますか？

(3) 佐渡汽船が建造契約の期限としている来年5月までに結論は出ますか？市が考えているスケジュールを伺います。

市長：

この件につきまして花角知事とは10月4日に県庁において面談させていただいております。市と県それぞれの立場で船舶建造に関する意見交換を行い、それぞれの考え方を整理したうえで今後事務レベルで協議を継続していくことを確認しております。佐渡市及び新潟県はともに船舶建造に対する直接的な財政支援が難しい中で、どのような支援方法が考えられるかがポイントとなっております。また、小木直江津航路における経営課題の解決に向けた取り組み等を同時に進めていく必要もあると認識しております。これら様々な懸念事項を踏まえつつ、なるべく早期に結論が出せるよう議論を進めていきたいという考えで合意しております。

5 ATR社の新型機42-600Sの佐渡空港への就航について

- (1) 市としての見通しと課題を伺います。
- (2) 新潟県の意欲についてどう見えていますか？
- (3) どのような協議の枠組みが必要とお考えですか？

市長：

これにつきましてはATR社の新型機は現佐渡空港で離発着可能というものでございますので、航空路再開や新たな可能性が広がるものと期待しております。新潟県は新潟空港活性化検討会議を設置して今後の新潟空港のあり方の検討に入っております。その中におきまして佐渡空港、ATR社の新型機導入の検討もされておると聞いております。佐渡市としましても運営会社がどうなるかといった課題等も含め、県や関係機関と連携しながら、このATR機の導入に向けて積極的に取り組んでいきたいと考えております。また、新潟県とは航空路再開と並行して2,000m拡張整備を推進していくという共通認識のもとに取り組むを進めておりますので、引き続き県と連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。ATR導入等につきましても、本市であります佐渡新航空路開設促進協議会において今後も議論・検討を続けて提言をしていきたいと考えております。

質疑応答

1. 次期「佐渡市将来ビジョン」策定に関する市民意見交換会の開催について

なし

2. 令和元年度佐渡市総合防災訓練の実施について

記者：

天気のいい時は柏崎原発が赤泊から見えます。この訓練せっかく赤泊の会場でやるのであれば、そういう非常に国民の関心の高い原発に対する訓練っていうのもこの中に文言としてあってもいいのではないかと思いますけども、このあたりはいかがですか。

市長：

赤泊が今回の訓練地となるということで今のお話も出てきたと思うのですが、今回は6月の村上沖地震、あの時に出了た津波注意報等々のところで実際に佐渡島民が身近に感じた災害について

の部分で訓練の中にメインで盛り込もうということで企画させていただいたものでございますので、今回原発を全面に押し出したということではなくなっております。

記者：

毎年その自主防災組織で津波避難訓練を各集落でやってると思うんですけども、どこの集落の自主防災組織がやるのかっていうのを予定表みたいなものがわかったら教えていただきたいなと思って。後ほどでもいいですけど。

防災管財課長：

今ご質問ありました実績と申しますか、自主防災会の実施している場所を知りたいということでしょうか。それは可能ですし、私どものほうでまたリストができましたらお渡ししたいと思いますけれども、ちなみに昨年は80団体1,500名が参加しております。

3. 「佐渡冬紀行」の発売について

記者：

利用客の見込んでどのくらい見込んでるのかということと、過去の実績がどんな状況なのか。

観光振興課長：

今年の見込ということなのですが、泊数で言わせていただきますと大体2,800人泊というところで見込んでおります。これは首都圏発着と新潟発着、また、姉妹都市の発着というところでそれぞれ見込んであるんですけど実態として首都圏の人が多くなったり新潟の人が多くなったりすることで内訳が変わります。なので昨年同額程度でもう組み立ててあるのですが昨年の実績としては2,870人泊というふうになります。私どもの見込と実態というのは少し変わってくるかもしれません。

記者：

実際に経済効果みたいなのはどのくらい見ているんですか。

観光振興課長：

昨年の数字を参考にさせていただいて今年の見込を立てますと約1億700万円程度の経済効果があると見込んでおります。

記者：

この中で活ズワイガニや寒ブリってありますけど、活ズワイガニは紅ズワイガニなんですか。それともズワイガニなんですか。値段がかなり違うと思うんですけど。

観光振興課長：

こちらは本ズワイガニを考えております。

4. 「佐渡トキマラソン2020」エントリー開始について

なし

事前質問への追加の質疑

1 来春の市長選への意向を改めて伺います。

記者：

任期満了まで半年となりました。この3年半の市政運営を踏まえまして、現在市政課題、最大のものは何だと捉えていらっしゃるのか。また、それに対してどのように取り組みなされたいのかご所感をお聞かせいただけますか。

市長：

この3年半の中で一程度実現できたもの、まだまだほど遠いもの、これははっきり分かれていると思います。特に当初自分が想定したところまで達してない大きな部分というのは地場産業、特に一次産業に対する再生の政策等がまだまだ遅れているというところなんかメインだと思います。達成できたものについてはこれまでもメディアの皆さんもご存知な部分もあるとは思いますが、様々な部分の中でも子育て環境と就学支援等については一定の形は少しずつ形にはできているものと思いますが、いずれにしても今後の残された課題等を踏まえて来年度からの将来ビジョンを描いているわけですので、この将来ビジョンをしっかりと策定して、その将来ビジョンの中で改めて説明させていただければというふうに思います。

2 台風19号による佐渡市内の被害と対策を伺います。

記者：

これ事前質問で入れた場合はその具体的な今さっき市長が発表された数字ですね。これ資料として付けてほしいんですけどね。

市長：

台風の被害とか、そういうのの数字ですか。それは後で出せるのかな・・・。

記者：

それで、今年は台風被害等かなり大きいと言われてますけど、去年と比較してどうなのか。被害額みたいな。

市長：

そしたら直近の台風で、例えば去年も秋3つ続けて接近したのの被害額等を含めて、ちょっと後でまとめて渡させてもらいます。

記者：

今大枠でわかると思ったんですけど。

農業政策課生産振興係長：

台風被害につきましてですが、昨年度ですが平成30年度は9億4,900万円の被害額がございました。平成29年度につきまして1億2,600万円となっております。

記者：

それで、大きいのは去年稲作が大きな被害にあったわけだけど、それを除いておけさ柿とかその他果樹ではどうですか。

農業政策課生産振興係長：

大変申し訳ございません。詳細につきましては後で・・・。

記者：

これ事前質問にあれば、それぐらい誰でも用意しておるのが普通じゃないんですか。

農業政策課生産振興係長：

大変申し訳ございません。

記者：

去年よりなんか被害が多いと言いながらもおけさ柿なんかは去年より被害が少ないと聞いたんだけど、そうなのか確認したいんだよ。

農業政策課生産振興係長：

数字につきましては資料は大変申し訳ございません。持ち合わせてはございませんが、今年のおけさ柿の被害につきましては当初被害額を見込んだ数字よりも品質につきましては特に問題ないというような報告を受けておりますので、被害額としましては少ないと考えております。

記者：

この次からこういう質問があったら、一目瞭然とわかる資料を付けていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

農業政策課生産振興係長：

申し訳ございませんでした。

記者：

一昨日の雨ですかね、大佐渡スカイラインが通行止めになっているということでしたけども、現状どうなっているんでしょうか。観光シーズンなんで、影響はどうですか。防衛省の所管の道路が・・・。

市長：

防衛道路が落石で、昨日まで2日間通行止めになったのは把握しています。今日は・・・。

記者：

初日にあそこの副隊長に聞いたら、落石自体は撤収したんで安全が確認されたら再開するっていう説明だったんですけど、今日まだあの表示が出てましたけどどうなってるんですか。

防災管財課長：

ただいまの件につきましては確かに大きな石が落ちたということで金曜の夜に話を聞きまして、直ちに上と下の道を止めようということになりまして、下は市道、上は県道ということでそれぞれで通行止めにしております。現在もそのままなのですけれども、防衛省としましてはもう少しまだ様子を見たいというふうに聞いておりますので、また再開しましたらご連絡しますけれども、今のところはまだそのままというところでございます。

3 先に厚生労働省が示した病院再編計画に両津病院が挙げたことに対する市としての見解と移転新築計画への影響を伺います。

なし

4 佐渡汽船ジェットfoil「ぎんが」の更新について

記者：

知事との面談の中でですね、県と市の立場というのは完全に一致しているというような形になったんでしょうか。それともまだ依然とそういう点が残っている形なんでしょうか。

市長：

そこについては佐渡市のほうが県にお願いしたい部分と県のほうのあれがまだ完全に一致しているというところまではいっておりません。そのために最終的なその合意、考え方の摺り合わせへ向けて今後もあまり時間をかけずに実務レベルの案作りを続けましょうということで、このあいだも話しました。

記者：

なるべく早期に結論を出したいということではあるんですけども、それは佐渡汽船側が提示する5月末というのは一つ区切りになるんでしょうか。

市長：

それもありますし、佐渡市等も含めてこれは県もそうですけども、具体的な部分に支援するとなった場合は予算組みにも絡んできますので、そうそう時間はかけられない。極力早めにとということで話をさせてもらっています。

記者：

県の側から佐渡汽船に事業改善計画、小木直江津航路に関しての提出を求めていたんですけども、それに関しては今現状どうなってる。

市長：

それは佐渡市も同じように全部基本的に支援依頼はいただいていますけども、その一方で佐渡汽船としての自らの経営改善努力の中身というものははっきり示してくださいということでお願いしておりますし、その辺で佐渡汽船さんがどこまで身を切る努力もしていただけるかというものをしっかり出していただきたいというところで今話をしております。

記者：

まだ提出されていないということですか。

市長：

段階的にいくつかあれですけど、まだ正式に取りまとまったというものではないです。

5 ATR社の新型機42-600Sの佐渡空港への就航について

記者：

先週なんですけれども、九州の地域航空会社3社と、JALとANAと一緒に有限責任事業組合というものを立ち上げて、その地域航空会社が持続的にやっていける枠組みを作ろうという取り組みを始めたということがリリースで出ましたけれども、そうした動きについて佐渡市としてはどういう

ふうに見ていらっしゃるか、今後有効な枠組みになるのか、考え方はいかがでしょう。

市長：

そのところ、もっと詳しく中身を把握しないと何とも言えませんが、あくまでも今新潟県のほうは今後へ向けて新潟空港活性化検討会議を県はやっておる。ここに佐渡市は現状入ってはいませんので、あくまでも佐渡市としては佐渡の空港再開という部分では絡んでくるのかもしれませんが、トータルのその活性化というところについては県が中心に練ってやりとりしているところでございますので、その情報は常にいただいて共有しながら佐渡空港の案件を考えていきたいと思っています。

記者：

新潟空港の活性化の中で、ATR を使った佐渡航路の含めた運行みたいな動きが財界のほうでなんか案件として動きが出てるってのを聞いたんですが、それはどの程度進んでるんですか。

市長：

民間レベルでそのような運航会社等も含めてこういう組織等の考え方があるんじゃないかという動きが出てきているという話は聞いていますが、まだ正式にこうこうこうというところまでいってる部分ではない。あくまでも今案としてその方向で取り組めないかという動きがあるということ把握しております。

記者：

近々設立とか、そういう準備に入るとか、そういうことではないということ。

市長：

本当に、いつ設立できるのかとかそこまでは、まだいってないと聞いております。

記者：

それに関連してなんですけど、又聞きになりますので真偽はわからないんですが、市長が就任してからは 2,000m 滑走路で地権者のところへ足を運んだのは名刺を渡しに行った 1 回だけだと聞いておるんです。事実かどうか知りませんが、それではまだこの ATR の機運がなかなかこう目処が立ちにくいという状況の中でいくと、2,000m 滑走路の実現する気持ちがあるかどうかというのはやはり関係者も知りたいと思うんですけど、そのあたりはどうも消極的だと思うんですがいかがですか。

市長：

名刺渡しに一度しか行ってないというお話は事実ではございません。具体的なお話がどこまでできているかというのはおいておいても、少なくとも毎年毎年お伺いはさせていただいておりますし、そこから先の部分については非常にセンシティブな部分もございますので、こちらとすれば今現在も一生懸命そちらへ向けて努力は続けさせていただいているということでございます。

記者：

その又聞きの話によりますと、我々は協力する意思があるんだけどということを色んな所へ伝えているようなんですね。そうすると市長が毎年行ってるのであれば反応は良くなるはずですし、

合わせて実現へ向けてそう手間がかからないのではないか、これはシビアな問題ですからなかなか難しいんですけども、ちょっとこれなんとなくこう理解しがたいような今答弁なんですけどいかがですか。

市長：

いや、地権者の方とは現時点で確実に、内容は言えませんが、接触、やり取りは行っております。